

発行 2019年12月7日
発行者 日本笑顔プロジェクト本部
代表 林映寿
〒381-0211 長野県上高井郡小布施町
雁田 676 浄光寺内 電話:026-247-3924
制作 燕游舎

800人前!

笑顔のホットステーション 炊き出し奮闘記



11月23日、千曲川河川敷での農業ボランティアにご参加くださいましたみなさま、ありがとうございました!

2019年11月23日。台風19号発生から40日余りを経た勤労感謝の日に、千曲川河川敷エリアの果樹畑にて、小布施町主催のごみ拾い・リンゴ落としのボランティア活動が行われました。参加者は、予定では約800人、最終集計では900人余りに。日本笑顔プロジェクトでは、この活動に合わせて炊き出しを決行。予定外・予想外の事態が続き、準備段階から慌ただしい幕開けとなりながらも、80人の炊き出し隊が大奮闘。その顛末をレポートします。

波乱含みのスタート

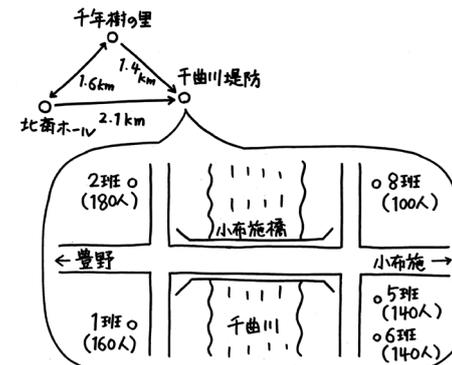
日本笑顔プロジェクト(笑顔P)では、台風19号の発生後、小布施町社会福祉協議会に設けられたボランティアセンター(ボラセン)を拠点に、10月23日から28日まで「笑顔のホットステーション(笑顔HS)」と称して炊き出し活動を行いました。一日に多くて50人のボランティアさんに対し、日替わりで集まる十数人のメンバーが、塩むすび、きのこ汁、リンゴなどの果物、ホットコーヒーを提供してきました。

一方、11月23日に向け町が募集したボランティア数は200人。想像が及ばないほどの規模でしたが、ボラセンでの炊き出しで要領をつかんでいたため、人数さえ集まれば対応できるものと予想されました。

当日の炊き出しメニューは、塩むすびとサンマのつみれ汁。お米は全国から笑顔Pに寄せられた支援米。遠近各地からご提供いただいた野菜やキノコ、信州ではおなじみのビタミンちくわもふんだんに。そしてサンマのつみれは、東日本大震災後の支援活動で笑顔Pと交流が深まった宮城県女川町から直送、しかも同町の笑顔P女川支部メンバーが自ら運び、レシピを指南してくださいました。

材料の手配が進み、メンバーも揃い、スケジュールや分担、買い出し準備も着々。あとは健康管理に気をつけて当日を待つばかり、と思っていたところ、4日前に衝撃のニュースが。「ボランティアが600人にまで増えている。」

さらに、2日前に明かされた事実。「最終的なボランティア人数は約800人のもよう。」



*カッコ内の数字は、各拠点のボランティア人数。

増員に伴って活動範囲が広がり、ボランティア拠点も大幅に増えて計8カ所に。それぞれ距離が離れているため、炊き出しも5班に分かれて対応することに。本番はもう目前。大急ぎで体制の組み直しを!

炊き出し前日、準備チームが集い、スケジュールや分担、買い出し計画の練り直し。「こんなにたくさん在庫があるのか?」という数量の食材・資材の買い出しに走り、サンマのつみれ800人分とともに小布施入りした女川チームの手を借りながら、夜にかけてお米の軽量とつみれ汁の下ごしらえ。並行して、追加募集に応じ参加表明くださったメンバーの班分け、スケジュール整理と連絡。

当日は「千年樹の里」調理室で塩むすびを作り、「北斎ホール」調理室でつみれ汁の野菜を切り、各々千曲川堤防へ運搬、配膳という段取り。塩むすび用のご飯は、200人分なら5.5升・3升・2.2升、計10.7升の炊飯器で一気に炊ける予定でしたが、800人に対応するには3回転が必要。そこで12時のボランティア活動終了に間に合わせるため、日程を前倒し。

千曲川堤防では、朝一番から約230ℓの湯を沸かす必要が。前日に北信ガスさんが設置してくださったプロパンガスとゴトクは、本番当日が初使用。操作は無事にできるのか? 人手は足りるのか? 活動終了までに準備は整うのか? 備品の手配は万端か? とにかく全力で臨むしかない! やったで〜!! そんな準備期間でした。

おにぎり隊、順調に800個完成

そして迎えた11月23日。朝7時、千年樹の里に到着したメンバーから早速洗米開始。3台のガス炊飯器で10.7升を一気に炊き上げると、ボウルにご飯を移してお釜を洗い、2回目の炊飯準備を進める人、ご飯をお椀に入れて計量する人、そこにお椀をかぶせてシェイクする人、そのご飯をラップに包んで形を整える人、運ぶ人、5班それぞれのボランティア人数分を保温箱に並べていく人……とあざやかな連



携プレーで1回目・2回目それぞれ約300個、3回目で約200個の塩むすびが次々完成。

ここからは、参加メンバーによる現場レポートを交えていきます。まずは笑顔Pの林映寿代表とスラックラインを通じて親しく、10月23日の笑顔HS立ち上げにも大町市からご参加くださった永田亜佳理さん。

笑顔HS第1日目に手探りで参加したときは、お米2升の50人分。それが、1カ月後のこの日には800人分! そんなに大勢のボランティアと「ボランティアのボランティア」をいとも簡単に集めてしまう小布施って、やっぱやること違うなあ……と、感動と興奮でたどり着いた社協の調理室では、みなさん慣れた手つきでおにぎりを握りまくっていて、「すごい集団!」が第一印象でした!

笑顔HS初日に提案させていただいた「炊くときに塩を入れてしまう塩むすび」が引き継がれていて、秘かに嬉しかったのですが、その塩が、これまた変わらずおフランスのグランドの塩だったことに、みなさんのこだわりと、支援してくれる人たちへの思いが込められているなあと、またまた感動。作業後に河川敷でほおばったおにぎりにこんな高級ソルトが使われているなんて! 見えないところの心遣い。そこがまたいいですね!

おにぎり隊は、1ラウンド目終了後、ご飯が炊きあがるまでのお茶ペリタイムに、自己紹介タイムを設けさせていただき、愛称

ネームも胸や肩に貼りながら交流ができ、2ラウンド目終了時のお茶べりタイムは4つのテーブルごとにワイワイ談笑、これぞ笑顔のホットステーション！ って感じ。写真を撮らずにはいられませんでした(笑)。

「塩むすびの形は三角でなく丸のほうが保温箱に詰めやすいみたい」「完全復旧していない浄水場の関係もあるので、器についたご飯粒も、なるべく排水溝には流さずにね」「手が空いたので違うテーブルだけお手伝いします」「ちょっと大きすぎたみたいだから全部握り直すよ〜」「流れ作業で握れるように配置を変えてみましょうか」

初めてお会いする方たちはばかりなのに、お互いに声を掛け合って、スケジュールどおりに順調に進んでいきました。

そしておにぎり隊リーダー、中村智弥さん。

当日はおにぎり隊のリーダーでしたが、都合で9時半から合流させてもらいました。私が着いた時点で、2ラウンド目が終了していました。最後の1回もみなさんの手際の良さにただただ圧倒されるばかり。みなさん初めてとは思えないチームワークでした。

おにぎり隊終了後、堤防へ向かう迎えがなかなか来ず、早く移動したいのにジリジリと待機する時間がしばし。そこでメンバーから「自力で移動しましょうか」「私、車を出しますよ」「では班ごとに相乗りで」と提案をいただき、早速、笑顔Pのステッカーを車に貼って、各班のおにぎり箱とともに現地に向かいました。みなさんの機転に感謝です。

前日に野菜切りのほとんどを終えていたこともあり、つみれ汁隊は北斎ホールで早々に下ごしらえを終え、9時には千曲川堤防へ移動。先発隊と合流してつみれ汁の仕上げ、配膳の準備へと向かう手順が進みました。

次々襲う「予定外」に配膳隊、全力で対応

一方の千曲川堤防。農業ボランティアさん800人は、朝から8エリアに分かれ、河川敷の畑のごみ拾いと水をかぶったリンゴの実を落とす活動を行っていました。

配膳隊は、小布施側3カ所、豊野側2カ所、計5カ所のボランティア拠点にそれぞれ炊き出しスポットを設置(各拠点名に応じて豊野側1・2班、小布施側5・6・8班)。なかでも容量の大きな鍋や火力の強いコンロを設置した2班・8班を汁本部とし、仕上がった汁を各班へ運搬、という体制を築きました。各班、手洗い・消毒用の机や水タンク、配膳用机を設置、鍋に湯を沸かし始めていたところへ、具材の下ご

しらえチームが合流、8時台にはつみれ汁の仕上げが始まりました。

予定どおりにいかないことは百も承知、と思っはいたものの……。ここから2班の班長・中村綾子さんのレポートです。

とにかく豊野側2班はハプニングの連続でした〜!

堤防に着き、豊野側は超大サイズ(169ℓ)の寸胴鍋でまずお湯を沸かし始めました。とにかくお湯が沸かないことには野菜も入れられないので、ひたすら待ちました。

小布施側から送られてきた画像を見ると、既に野菜を入れて煮込まれ、かなり良い状態。各班と報告をし合いながら待機していると、やっと沸騰の気配。その時点で小布施側は既につみれを投入!そこで小布施側につみれ汁ができあがった時点で、豊野側に分けて運ぶことになり、少し安堵。

そのころ、火力がもう1段階大きくなることが判明。早速全開にすると、かなりの勢いで鍋の中がグツグツ。「おお! やったー」とみんなで雄叫びをあげました。

「あと30分はあるから何とかなるね!」と言っていたところに、なんと12時に戻られるはずのボランティアさんたちが作業を終えて帰還。まだ塩むすびも届いていないのに!

そこへ、小布施側8班からつみれ汁と火力の強い日赤鍋、塩むすびが続々到着。よかった、よかった〜!

すると今度は1班の準備ができていないと連絡が。2班から私を含めて何人かが1班へ移って手伝い、何とか配膳の準備が整いました!

しかしまたも問題が! お玉がない〜! もうお玉を待っている状況ではなかったので、お椀をお玉代わりにして配膳しました。

必死で準備するメンバーをボランティアの方たちは快く待ってください、「とてもおいしい!」と食べてくださいました。

11時半ころには1班が一段落したので2班に戻ると、こちらもうだいぶ落ち着いていて、これでやっと一息……と思いきや、今度は小布施側の汁が足りないとの連絡!慌てて豊野側のつみれ汁を集め、小布施側



に運んでもらいました。

そしてこちらは、2班と同じ豊野側、1班の班長・北村尚子さん。

配膳隊1班は9時30分過ぎに到着したところ、誰もいない。机の上に手洗い用の水タンクがあるのみ。2人いれば1人は1班で待機できたのですが、それも叶わず、とりあえず資材を探しに2班へ。すると2班では「お湯が沸かない」と悩んでいました。1班のコンロを持ってきて追加用の湯を沸かそうかとも考えましたが、「林代表が小布施側へつみれ汁を取りに行ったから、それを待とう」ということになり、そのまま継続。

ところが、まだつみれも入れていない状況で作業ボランティアさん帰還の一報が。こんなに早く!? 慌てて鍋を持って小布施橋を渡り、先につみれ汁が仕上がっていた8班へ。鍋2杯分のつみれ汁をいただいて、おにぎり1箱とともに豊野側へ。移動時は、作業を終えたボランティアさんが堤防を歩いていて、なかなか車が進めず……。

その間に、1班へは林代表がつみれ汁を運搬。ところが、お椀がない! 資材は強風を避けるため私の車に積んだままだったので、それを届けました。

盛り付け時には、お玉がない! 追加のお玉は11時におにぎり隊が持ってくる予定だったので間に合わず。私が自宅から持参したお玉は2班に置いたまま。



8班からいただいたつみれ汁を2班に運び、配膳のセッティングをして、若者を中心とした私設支援団体「長野ブラッシュ」のみなさんに後を託すと、お玉を持って1班へ。ここで林代表の爆走バギーが現れたので、お玉を1班へ届けてもらいました。

林代表と、ヘルプに入って下さった2班の綾子さん、長野ブラッシュのお二人と配膳開始。塩むすびがようやく届いたのは、1班での振る舞いを終えて撤収作業をしていたときでした。

作業ボランティアさんは「とてもおいしい」と言ってくださり、おかわりもたくさん。「つみれがおいしい。どうやって作るの?」と聞かれ、「女川からいただいたんですよ!」と説明したらびっくりしておられました。



配膳隊、それぞれの奮闘

小布施側でも11時過ぎには、活動を終えたボランティアさんの姿が。

ここで、おにぎり隊から配膳隊へ合流した永田亜佳理さんのレポート。

配膳担当の6班に到着すると、すっかり舞台は整えられ、あとはおにぎりボランティアさん待ちの状態。

すべてが揃ったところへ、ボランティアさんが戻ってきはじめ、6班はいいタイミングで炊き出しを食べていただくことができました。早くに配膳終了した地区からの応援が駆け付けていたこともあり、自然と役割分担が生まれ、細かなごみの分別まで気を配ることができました。外であっても、少しでもきれいに整った場所でおしく食べることは大事。おかわりや、お土産の塩むすび&バナナも喜んでいただけていました。

「どこの汁が足りない!」「塩むすび、余ってない?」とメッセージでやり取りし、ほ

かの班の状況を知って補い合えたのは、とても助かりました。

黄色いバギーで風のように駆け回る林代表を見て「あの方、どなた?」と会話のきっかけをいただいおしゃべりが弾んだり、作業後埃まみれになった市村良三町長ともお話しできたり。砂埃が舞う枯れ野原のような堤防沿いが、だんだんと人が集まり、笑顔が増えるにつれて、とても温かい熱で包まれ、なんだか周りの草木も芽吹いてきちゃうような印象さえ受けました!

配膳が一段落して、つみれ汁を班のみんなでおいしくいただいているとき、林代表から6班に最後に出た指示が「仮設トイレ以外全部、8班に持って来て〜!!」「え? これも? あれも? 全部?」。そんな撤収作業も含めて全部楽しかったです。

解散した後の8班の撤収作業も、人数が少なそうだからと声をかけさせてもらい、この車に乗ってきた5名は連帯で(笑)最後までお手伝いとなりました。

事前説明で流れがスムーズに

この日最も機転と柔軟さを求められた配膳隊。そのリーダーと小布施側・5班班長を担った岩月絢美さんのレポート。

つみれ汁隊は、野菜切りグループと配膳準備グループに分かれて活動しました。私は配膳準備グループとして千曲川堤防へ向かいました。堤防では、先に到着していた女性4名と合流し、お湯沸かしやつみれの手揉みからスタート。お湯が沸くまで比較的暇で、ちょうどいい人数でした。

お湯が沸くまでに時間がかかりましたが、2つの鍋に分けてお湯を沸かし、火力が強い方で作業を進めていきました。また途中で味噌や粉末だしが足りなくなるかもと予想し、予備をすぐに手配していただけたのは助かりました。

つみれの量がとても多く、一口大に分けながら投入する作業には時間がかかりました。そこへ野菜切りグループが合流し、さらに長野ブラッシュのみなさんが来てくれて、作業はスピードアップ。

当初の予定では、つみれ汁隊・おにぎり隊がボランティア本部横の8班に集まり、そこから自分の担当箇所に分かれる予定でしたが、おにぎり隊が到着する前にボランティアさんの帰還が始まったため、予定していたおにぎりは移動できませんでした。手探りで班分けの指示を出したところ、みなさん



が指示どおりテキパキと動いてくださいました。臨機応変な対応に、感謝、感謝です!

豊野側で予想外にボランティアさんが早く帰ってこられ、つみれ汁が出せない状態でしたが、迅速に連絡を取り合い、小布施側からつみれ汁を運搬して、なんとか提供することができました。

小布施側のボランティアさんが帰ってくる前に、8班に集まっていたメンバーに手洗いから汁物渡しまでの流れを大まかに説明しました。また、8班に4人ほどのボランティアさんが帰られた際、実際の配膳の様子を見てから各班に分かれたので、イメージをつかめてよかったと思います。さらに、先発隊で行ったメンバーが臨機応変に動いてくださり、後から合流した配膳隊の方も、なんの不安もなく入れたと思います。

配膳終了後は、各班ともとてもきれいに撤収してくださり、安心して終えることができました。

千曲川の兩岸をATVバギーが結ぶ

慌ただしい現場、制約の多い環境。堤防の片側はボランティアさん用の駐車場となっており、場所によりすれ違いがギリギリだったり、堤防上でUターンの必要があったりと、小回りのきく車両でないに対応できない状況。

ここで、全長約1kmの小布施橋を挟んだ5拠点の間をつなぎ、必要物資や塩むすび・つみれ汁の運搬を担ったのが、2台のATVバギー(全地形対応車。1台は単体、1台は荷台付きでした)。その1台に乗っていたのが、永田さんと同じく笑顔HSの立ち上げを支えてくださった高島勇夫さんです。

今回、小回りのきく機動力が必要ということで、ATVバギー2台で活動しました。狭い通路での走行や悪路の走破性に優れ、何よりドアがないため乗り降りが楽。しかし、僕が乗っていた荷台付きの方は小布施橋を渡れないため、途中からは僕は軽トラで塩むすび、つみれ汁など運んで行き



来していました。

その場その場でニーズを聞いて動いていましたが、僕もトランシーバーを持っておけばよかったと思いました。今回、ご縁あって東京から参加させていただきましたが、この体験と学びは東京でも有事のときには必ず生かせると思っております。

小布施側の畑ではタイヤやコンテナ類の大型のごみも多く、バギー隊は途中からごみの回収もお手伝い。畑にはまだ泥や土が多く、軽トラでは車輪を取られて動けなくなってしまうので、四輪独立サスペンションでパワーのあるバギーが力を発揮しました。

個の力が結集した笑顔ONE TEAM この経験を次への糧に

本番直前での作業ボランティア人数増加と、予定より大幅に早まった当日のボランティア活動終了への対応に追われた今回の炊き出し。参加メンバーはそれぞれ予想外の事態に直面しながらも、臨機応変に対応。「作業ボランティアさん全員に、笑顔でお帰りいただく」という目的は果たされたのではないのでしょうか。

各場面での気づきもさまざま。ここでその一部をご紹介します。

▶おにぎり隊では、秤の数が限られている中でも、隣の班から分量どおりのおにぎりを借りてきて目分量でご飯を盛るなど、柔軟な姿に「さすが!」と思った。

▶手洗い用の水がおいしい飲料水だったことに驚き。片付け時、封を開けたボトルはすべて中のお水を処分することになり大量に捨ててしまったので、必要に応じて開封すればよかった。また「水を飲みたい」というボランティアさんも多く、コップを用意したらよかった。

▶配膳隊では、人手の足りない班にうまく人を配置してくれたリーダーの機転に感動。

▶困ったときはメッセージで連絡すると、すぐに対応してもらえてありがたかった。

▶予想外のことがたくさん起きる現場。先を見越した判断と早めの行動が必要。

▶片付けの際は、寸胴鍋があまりに大きく、外で洗ったのが笑えた。すごい経験!

▶小布施出身でなく、小布施の知り合いの方がほとんどいない中、みなさんの中に入って一緒に活動できたこと、本当に良かった。みなさんと仲間になれたと強く感じた。

▶小布施はONE TEAM 感がすごい。

▶ボランティアのみなさんに「おいしい」と言ってもらえて嬉しかった。自分の同級生や同級生のお母様、教え子のお母様たちも大勢お手伝いに参加されていて、久しぶりの顔ぶれもとても嬉しかった。すべてに感謝、感謝!

▶ドタバタ、はちゃめちゃ、早く早く! あれどこ、これどうする、まだまだ、つぎつぎ……などと言っているうちに、ふう〜何とか終わったー! 大変だったけど、やって良かった! という達成感。何よりボランティアさんたちの食べ終わった後の笑顔が忘れられない。

▶すべては日ごろからの、ご近所だけではなくさまざまな方々とのふれあい、コミュニケーション。とは言え、全員のことを知っている必要はなく、それぞれのコミュニティを持ち寄って大きなうねりとなり、今回のような離れ業ができたのではないかと。

▶初対面同士も多く、きつと細かな困ったこと

もあつたはずなのに、すべてクリアしていくこの団結力! きつとみんな同じ想いを抱えて同じ方向を向いていたのかなあ。一人にできることは小さくても、集まればこんなに大きくなるものなんだなあ。感動しっぱなし、あつという間の一日だった。

そして、野菜を提供くださり、当日は農業ボランティアに参加された方からのメッセージ。

お腹を空かせて帰ってきたところにつみれ汁とおにぎりがあり、ありがたく、おいしくいただきました。

3.11 後、ボランティアという形で人の痛みを共有する行為が醸成され、今回小布施のボランティアにも多くの方が参加されており、時代の変化を感じたと、ボランティアの参加者同士で話しました。

自分ができることでかかわる人が多くなったことの多様性も感じます。「自分だけよければいい」「誰かがやればいい」でなく、自分もかかわれるのではないかという行為。未来を照らす一筋の光を感じました。

最後に、林代表から。「何事も経験です。臨機応変にその都度各自の判断で動く。今回参加された炊き出しメンバーは、その貴重な経験を自分のものにしたと思います!」



ご支援くださったみなさまありがとうございます

今回、後方支援をくださいましたみなさまをご紹介します。深く感謝申し上げます。
白菜：屋台ふぁーむ小林さん、大根：北村尚子さん・篠塚明美さん・高野薫さん、人参：永田亜佳理さん、ネギ：塩瀬春香さん、高野薫さん、きのこ：株式会社ハーツさん、豆腐：茶房めめ家さん、ビタミンちくわ：株式会社スギヨさん（石川県）、秋刀魚すり身：ワイケイ水産株式会社さん（宮城県）、味噌：土鍋ラーメンたけさん・穀平味噌さん、ガスコンロ・ガスボンベ・日赤鍋・水ボトル等々：北信ガス株式会社さん、寸胴鍋・大鍋：とん太郎さん・小布施町振興公社さん・松の実・中央・大島の各自治会さん・ほか多数、風除アルミ板：株式会社ワクイさん、ウォーターサーバー：株式会社ワールドエコさん、バナナ：ボランティアにお越しの方、ATV バギー：株式会社 RSS 高喜屋さん（新潟県）・浄光寺、ATV 積載運搬：原田屋自動車販売（掲載順不同）

<支援金のおねがい>

日本笑顔プロジェクトの活動はみなさまからの支援金のみで成り立っております。「笑顔の復活農園大作戦」では、重機やダンプの燃料資金が必要です。ご支援のほどを、なにとぞよろしくお願いいたします。

日本笑顔プロジェクト 代表 林映寿

八十二銀行（ハチジュウニギンコウ）

小布施（オプセ）支店（252）

口座番号 普通：211038

口座名 日本笑顔プロジェクト
（ニホンエガオプロジェクト）

※口座番号に7桁の指定がある場合は、先頭部分に「0」を入力して、[0211038]としてください。